

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 4月 27日

| | | | |
|--|-------------------------------|--------------|---------------------|
| 所属・職名 | 商経学部 専任講師 | 氏名 | 布施 雄治 |
| 研究課題 | ドイツにおける「インダストリー4.0」と変革期の自動車産業 | | |
| 研究キーワード | インダストリー4.0、モノづくり、デジタル化、CASE | 当年度計画に対する達成度 | 4.当初の計画どおり研究が進まなかった |
| <p>1. 研究成果の概要</p> <p>2019年度の研究は、下記の2つに大別される。</p> <p>① ドイツにおける「インダストリー4.0」—モノづくりのデジタル化とその展望—</p> <p>2019年度の研究目的は、ドイツのインダストリー4.0の構想の全体像と推進体制、また取り組みの現状を考察することで、ドイツがモノづくりの将来展望をいかに構想しているのかについて検討を加えることにあった。この点について、2019年度は、政府・関連組織の公開資料とドイツの先行研究の精読と検討を行ったが、それらが不十分であったため、インダストリー4.0の構想の大枠を捉えるのに留まり、研究の進展は見られなかった。</p> <p>② 変革期のドイツ自動車産業—CASEの進展を巡って—</p> <p>2019年度の研究目的は、Daimler AGがCASE戦略を公表してから注目されるようになった「CASE（コネクテッド[Connected]、自動運転[Autonomous]、シェアリング[Shared & Services]、電動化[Electric]）」をキーワードに、ドイツ自動車産業のCASEに関わる取り組みの現状と自動車産業の変革の将来的方向性を捉えようとするものであった。この点については、ドイツの先行研究とりわけ業界誌の収集と検討が進まず、研究の進展は見られなかった。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>該当なし</p> <p>3. 主な経費</p> <p>ドイツのインダストリー4.0、モノづくり、イノベーション、自動車産業などに関連する文献を購入した。研究会参加のために、研究会出張旅費に充当した。</p> <p>文献の収集・整理等のために、インクトナー、文具、PC周辺機器等の購入や文献複写費に充当した。所属学会の年会費に充当した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>該当なし</p> <p style="text-align: right;">(本文は1ページ以内にまとめること)</p> | | | |